

# 華鳥風月



嗚呼 華のように鮮やか 啊 像花那樣鮮豔 颯

に さあ

嗚呼 鳥のように優雅に

嗚呼 風まかせも心地良

い さあ

嗚呼 月明かり照らされ

て

啊 像鳥那樣優雅

啊 憑風拂面也很舒服

颯

啊 明月光輝照耀世間

---

正しさなんてもの

人の物指しによって変わる

この世界 不変あるとするならば

華鳥風月 厳かで美しいもの

所謂的正確與否

會根據人的判斷而改變

這個世間 要說不變的事物 唯有

花鳥風月 這些莊嚴而美麗的事物

---

後悔をして 学び また歩もう

二度と過ち 繰り返さぬように

歴史とは 変わらぬ感情が

廻り廻って 傷つけて和解された

世界の成長

經歷過後悔 學會教訓

繼續前行

不要讓錯誤再一次重複發生

所謂的歷史 也就是不變的感情

峯迴路轉 相互中傷又和解

也是世界的成長

---

正しさなんてもの  
大人にも分からない幻想

この世界 不変あるとす  
るならば  
華鳥風月 穏やかで懐か  
しきもの

所謂的正確與否  
更多是連大人都無法理解  
的幻想

在這世間 要說不變的事  
物 唯有  
花鳥風月 這些穩重而令  
人懷念的事物

---

汚れぬことが  
正義なのだろうか？  
過ちの中にあるけじめに

魅せられ知った 穢れを  
恐れぬ愛も  
正しさと言うこと

不同流合汚  
就能算是正義了麼？  
一次次犯錯中 尋找每次  
的區別

被魅惑後又知情 卻還無  
懼於污點的愛  
也能說是正確的吧

---

形無いからこそ  
感じようと思える  
それも 生けるものすべ  
て内側に持つ  
華鳥風月 測れないから  
意味がある  
だからこそ 愛を彷徨う

正因為沒有形狀  
所以纔更想去感受到  
這一點也 讓它存在的原  
因全都是發自內心  
花鳥風月 因為無法測量  
所以纔有意義  
正因如此 纔會在愛中彷  
徨

---

悲しめる心も	讓人悲傷的心也
怒れる優しささえも	就連讓人憤怒的溫柔也
きっと 生けるものすべ	一定是 讓它存在的原因
て内側に持つ	全都是發自內心
華鳥風月 何処までも美	花鳥風月 無論何處 都
しくなれ	美麗動人
いつまでも美しくあれ	無論何時 都美麗動人

---

《花鳥風月》，算是比較著名的東方改編曲了，因為作為《幻想万華鏡》的片頭片尾曲，配上了動畫的片段，算是對整個東方正作故事中描繪事物的總結。就像我第一篇翻譯的歌詞《童遊》因為是對神主ZUN自己的主題曲《童祭》的重新譜詞而有了總起的性質，這篇《花鳥風月》也因為用在《幻想万華鏡》而有了總結的性質。

---

あゝ	はな	あざ	
嗚呼	華	のように 鮮	やかに さあ
あゝ	とり	ゆうが	
嗚呼	鳥	のように 優雅	に
あゝ	かぜ	こころ	よい
嗚呼	風	まかせも 心地	良い さあ
あゝ	つき	あ	て
嗚呼	月	明かり	照らされて

---

ただ  
正しさなんてもの  
ひと もの さ か  
人の物指しによって変わる

この<sup>せかい</sup>世界 不<sup>ふ</sup>変<sup>へん</sup> あるとするならば  
かちょうふうげつ おごそ うつく  
華鳥風月 厳 かで 美 しいもの

---

こうかい まな あゆ  
後悔<sup>こうかい</sup> をして 学<sup>まな</sup> び また 歩<sup>あゆ</sup> もう  
に ど あやま く かえ  
二<sup>に</sup>度<sup>ど</sup> と 過<sup>あやま</sup> ち 繰<sup>く</sup> り 返<sup>かえ</sup> さぬように  
れきし か かんじょう  
歴<sup>れきし</sup>史<sup>し</sup> とは 変<sup>か</sup> わらぬ 感<sup>かんじょう</sup> 情<sup>じょう</sup> が  
めぐ めぐ きず わかい  
廻<sup>めぐ</sup> り 廻<sup>めぐ</sup> って 傷<sup>きず</sup> つけて 和<sup>わかい</sup> 解<sup>かい</sup> された  
せかい せいちょう  
世<sup>せかい</sup> 界<sup>かい</sup> の 成<sup>せい</sup> 長<sup>ちょう</sup>

---

ただ  
正<sup>ただ</sup> しさなんてもの  
おとな わ げんそう  
大<sup>おとな</sup> 人<sup>にん</sup> にも 分<sup>わ</sup> からない 幻<sup>げん</sup> 想<sup>そう</sup>  
せかい ふへん  
この<sup>せかい</sup> 世界 不<sup>ふ</sup>変<sup>へん</sup> あるとするならば  
かちょうふうげつ おだ なつ  
華鳥風月 穏<sup>おだ</sup> やかで 懐<sup>なつ</sup> かしきもの

---

けが  
汚<sup>けが</sup> れぬことが  
せいぎ  
正<sup>せいぎ</sup> 義<sup>ぎ</sup> なのだろうか？  
あやま なか  
過<sup>あやま</sup> ちの 中<sup>なか</sup> にある けじめに  
み し けが おそ あい  
魅<sup>み</sup> せられ 知<sup>し</sup> った 穢<sup>けが</sup> れを 恐<sup>おそ</sup> れぬ 愛<sup>あい</sup> も  
ただ い  
正<sup>ただ</sup> しさと 言<sup>い</sup> うこと

---

かたち な

形 無 いからこそ

かん

おも

感 じようと 思 える

それも 生 けるものすべて 内側 に 持 つ

かちょうふうげつ

はか

いみ

華鳥風月 測 れないから 意味 がある

だからこそ 愛 を 彷徨 う

かな

こころ

悲 しめる 心 も

おこ

やさ

怒 れる 優 しささえも

きっと 生 けるものすべて 内側 に 持 つ

かちょうふうげつ

どこ

うつく

華鳥風月 何処 までも 美 しくなれ

いつまでも 美 しくあれ



巡って廻って (Pixiv 72616493)